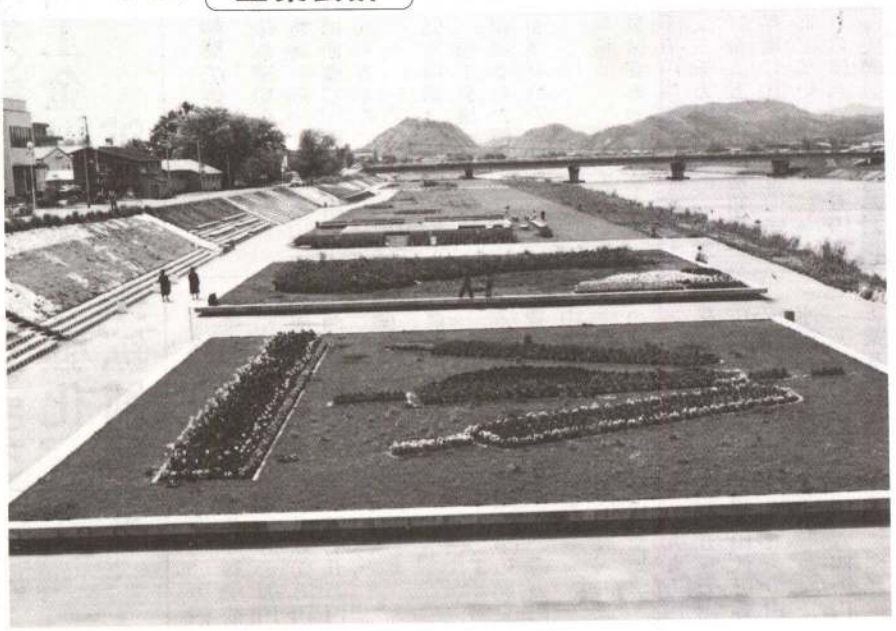
61年度 一般会計 特別会計 企業会計 当初予算は275億2,258万円

活力のある住みよいまちづくり

商工業の振興、生活環境の整備を最重点に

六十一年度は、国の補助負担率の引き下げと市経済の低迷などでいぜんとして厳しい状況の中で、商工業の振興、福祉や生活環境の整備、教育の充実などを最重点とした予算を組み〝活力のある住みよいまちづくり〟をしていきます。今年度当初予算の中から主な事業をお伝えします。



歳入

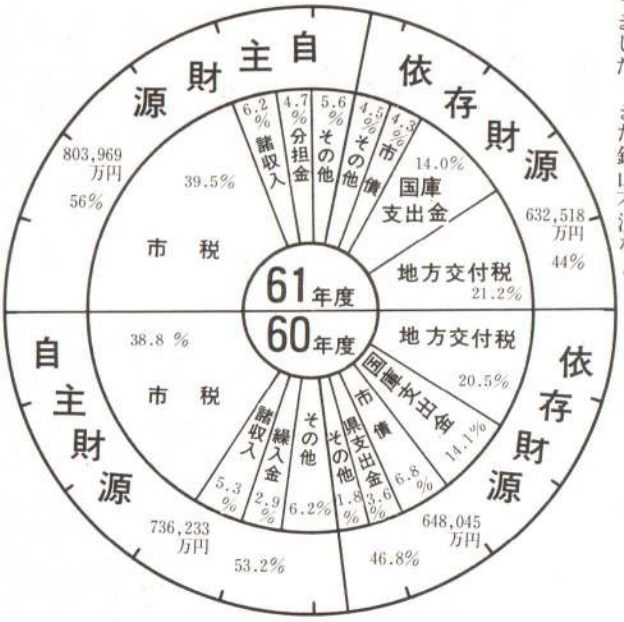
財調基金を道路事業に充当

歳入は、前年度から行われた国の補助負担率の引き下げで、六十年度は一億九千六百万円、六十一年度では二億百円が市費の負担増となりました。また鉱山不況などで市経済も低迷状態が続いており、市税収入も大きな伸びは期待できない状況下にあります。

このため、市では歳入を確保するため、賃金や補助金、時間外手当などを削減したほか、長年据え置きになっている手数料や使用料の改正をしました。また市民から要望の多い道路の維持改良を図るため、六十年度末で約十一億円ある財政調整基金から二億五千万円を取り崩してこの財源に充当しています。

一般会計当初予算構成比の比較表

◆61年度予算額　143億6,487万円



◆60年度予算　138億4,278万円

市長の対話ノート

新年度に思う

No.128

今日から新年度、二百七十五億余円の予算を決定していただきましたので、その効率、有効運用、執行を通して地域経済活性化のために全力を尽してまいりたいと存じます。

私の七度目の予算編成でしたが、今回ほど苦労したことはありません。

それは、国の財政事情が極度に悪化したことから補助率が大幅に削減されたことや、内外の経済不況から歳入の増加は望めない状況にあり、一方では毎年決まって必要な経費は確実に多くなるからです。

そこで内部で使う経費は徹底した切りつめを行いましたし、市民の皆様にも使用料、手数料等で負担増をお願いする事としながら、これまで蓄えた基金の一部を取り崩しながら、公共事業の一定量を確保し、経済活動が円滑になるようにと編成しました。

今日からその予算を執行することになりましたが、編成に当っての苦労が実るように、決った予算だから全部使うとか、惰性で機械的に使うということのないように、特に「徹底したムダの排除」と「常に市民の立場に立って」を合言葉に、執行に万全を期してまいります。工夫や努力を惜しまなければ、予算以上の仕事も可能ですので、皆様方からも暖かいご支援をお願い申し上げます。

畠山健治郎